

平成27年度 しがこども体験活動指導者研修会

子どもの体験活動に関わる団体、施設、指導者等が一堂に会し、講演や意見交換をとおして、子どもの体験活動の充実と支援者のスキルアップを図ることを目的として研修会を実施しています。

【日時】

平成27年5月22日（金）13:30～16:30

【会場】

滋賀県庁東館7階大会議室

【対象】

社会教育関係者、学校教育関係者

自然体験活動の企画・運営者等（しがこども体験学校登録団体）

市町教育委員会生涯学習課主管課、公民館、生涯学習関連施設の職員

【参加者】

68名

【開催日程・内容】

日程	内容
13:00	受付
13:30	開会行事 開会あいさつ、日程説明
13:40	講演 「自然体験活動の教育的意義とリスクマネジメント」 講師 びわこ成蹊スポーツ大学 教授 中野 友博 氏
15:05	説明 自然体験活動安全管理マニュアル作成の手引きについて
15:20	実践紹介（子どもたちの心をほぐすアイスブレイクの紹介） ～SMAP(しがメンタルアドベンチャープログラム)の紹介～
15:35	グループ協議 活動の中での悩み等、グループごとの交流 講師による助言
16:30	閉会



開催報告

5月22日（金）、県庁東館7階大会議室において「しがこども体験活動指導者研修会（自然体験活動安全対策研修会）」を開催しました。

はじめに、びわこ成蹊スポーツ大学教授 中野友博氏より「自然体験活動の教育的意義とリスクマネジメント」というテーマで御講演をいただきました。

講演の前半は、子どもの成長段階において、自然体験活動を行うことが「生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健康・体力）」を培うとともに、「感性・想像力・創造力」を豊かにするなどの教育的意義についてのお話をいただきました。

後半は、リスクマネジメントの意味や手順・考え方について説明いただき、リスクマネジメント意識の向上とともに、指導者の責任や注意義務についてもお話いただきました。

全体の講演をとおして、自然体験活動の意義を改めて実感するとともに、安全に体験活動を行うポイントをわかりやすく教えていただきました。

続いて、「自然体験活動安全管理マニュアル作成の手引き」の改訂について、県教育委員会生涯学習課担当者から、昨今の急変する天候や自然災害およびSNS等による情報化社会にも対応できるように様々な観点から見直しをしている旨と今回の改訂点について説明を行いました。

さらに、彦根市荒神山自然の家駐在職員の指導のもと、滋賀県教育委員会が推進している、子どもたち同士の円滑な仲間づくりを支援する、しが「心の冒険」プログラム（Shiga Mental Adventure Program）を体験していただく中で、アイスブレイクを行いました。

最後に、事前にお聞きした話し合いたいテーマごとに、各団体の取組や悩み等についてグループ討議と情報交換を行っていただきました。

【参加者の感想から（抜粋）】

〈講演〉

- ・リスクマネジメントについて、再度考えることができた。
- ・緊急時の対応について、予め準備をしておく必要を感じた。
- ・今後のイベントについて、注意を促したく、勉強になりました。
- ・安全管理マニュアルを見直しているところであったので、とても役立った。
- ・2つのテーマについてわかりやすく教えていただけた。自分の事業の課題が浮き彫りになった。どこまでの目標、事業の目的にするのかが悩ましいところ。
- ・緊急時の認識が深まった。体験による具体的な将来的メリットの話がよかったです。
- ・各活動ごとに安全管理マニュアルを作成しなければならないことを改めて実感した。
- ・危険予知トレーニングが特によかった。
- ・リスクを考えての活動が根底にあると、参加者への対応にもゆとりがもてると思いました。

〈グループ協議〉

- ・他の団体と悩みを共有できたので、よかった。
- ・様々な団体と情報交流ができた。やっぱり交流はいいものだ。
- ・色々な立場の方から話が聞けてよかった。同じような悩みもあり、安心した部分もある。

